

## 審議会会議録

1	会議の名称	平成25年度第2回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成26年3月20日 午後2時～午後3時30分
3	開催場所	富津市役所401会議室
4	審議等事項	(1) 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査報告について
5	出席者名	委員 富井碧、木下照代、井上久吏子、白井まり子、金子豊、相澤靖司、小柴喜大、能城美佐子、鈴木眞廣、君塚善恵、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳子、十川敬三、菊池定勝（清水委員代理） 事務局 白石子育て支援課長、茂木子ども家庭係長、小野田保育係長、渡邊主任主事、学校教育課細谷指導主事
6	公開又は非公開の別	公開 ・ <del>一部非公開</del> ・ <del>非公開</del>
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0 人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成 2 5 年度第 2 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局・茂木	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の確認</li> <li>・会議の成立</li> </ul> <p>本日は、15名の委員全員が出席され、過半数を超えておりますので、子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立しております。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の公開</li> </ul> <p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議を公開することとなっております。</p> <p>本日の傍聴人はおりません。</p>
事務局・白石	<p>子育て支援課長挨拶</p>
十川会長	<p>会長挨拶</p>
事務局・茂木	<p>議事の進行につきましては、本会議設置条例第6条第1項の規定により、会議は会長が招集し、その議長となるとありますので、議事進行は十川会長にお願いいたします。</p>
十川会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会議録署名人</li> </ul> <p>それでは、議事の進行を務めさせていただきます。</p> <p>議題に入る前に、本日の会議録署名人を指名いたします。</p> <p>会議録署名人については、井上委員と白井委員にお願いいたします。</p>

<p>十川会長</p>	<p>&lt; (1) 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査報告について &gt;</p> <p>議題 (1) 子ども・子育て支援事業計画ニーズ調査報告についてを議題といたします。調査報告は就学前と小学生とありますので、はじめに就学前児童の調査結果について、事務局の説明を求めます。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>資料 1 について説明</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>○質疑・意見</p> <p>人口のバランスの問題はあると思いますが 1,000 件のニーズ調査の自由記載をみると旧富津地区の回答が多いのですが、人口のバランスでそのような結果となったのでしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>4 ページの地区ごとの表をみてわかるように青堀地区が全体数も多いので回答数も多い結果となっています。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>市の北部の方が回収率が高いなどの結果のバランスが把握できているのでしょうか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>地区別については、まだデータを業者からもらっておりません。</p>
<p>金子委員</p>	<p>16 ページの土日祝日の保育希望が「必要ない」という方が結構多いのですが、調査票を返さない人が生活に追われて、実際土日働いていて、調査票を返せない人たちだと思います。ですので、これだけを基に土日の保育はいらないと思ってしまうのは性急ではないかと思えます。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>絶対数が少ないからやらないということではありません。また、必要な人はいますので、それにどれだけ対応できるかだと思います。単純に少ないからやらないと</p>

鈴木副会長	<p>いうことは考えておりません。</p> <p>家族形態について、調査項目にはありませんが、例えば学童保育にしても「いない」と回答している方が半分位いますが、そういう家庭というのは、おじいちゃんおばあちゃんがいるからいないのか、どう必要なのかはこれだけではわからないところです。</p> <p>9 ページで今後の就労意向について、日本の就労状況は、M字カーブといわれていて、結婚・出産で一度落ち込み、子育てが一段落したらまた復活するという特徴があります。この表の中でパート労働が多いのですが、実際その働き方を望んでいるのか、育児等のことからフルタイムで働くことができないのかはわからないところです。</p> <p>1 2 ページの希望保育時間で6・7・8時間の時間が多いのですが、1 3 ページの平日利用したい施設では、幼稚園が一番多いという結果となっています。幼稚園では預かり保育をやっていると思いますが、希望する保育時間と幼稚園の実態との意識のズレがあるのかなと思いました。</p>
十川会長	<p>他に、ご意見、ご質問等はございますか。</p> <p>無ければ、続いて、小学生の調査結果について、事務局の説明を求めます。</p>
事務局・渡邊	<p>資料2 について説明</p> <p>○質疑・意見</p>
松倉委員	<p>7 ページ問 1 1 - 2 で「利用したい」が逆転している地域がありますが、これは地域性としてどのようにみれば良いのでしょうか。</p>

事務局・白石	<p>この地域は、学童保育が無い地域です。市では補助金を出し、民設民営でお願いしております。青堀・富津・飯野・大貫・佐貫は、学童クラブがあります。その他の地域は学童クラブがないので、このような結果になっていると推測しております。</p>
金子委員	<p>自由記載の中で学童保育や図書館などのことがありますが、この会議では、認定こども園等の検討を行うと思っておりましたが、小学校の学童保育や図書館等の建設についてもこの会議で検討していくのでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>認定こども園については、新制度の中にメニューに入っております。図書館や通学路については、アンケートでは答えてもらっておりますが、この計画の範疇ではありませんので、この会議で検討することはありません。</p>
金子委員	<p>放課後児童クラブについてはどうでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>放課後児童クラブについては、計画の中に入っております。</p>
鈴木副会長	<p>学童保育の立ち上げのときに関わったことがあります。始めたときは、学童保育がないと仕事を辞めなくてはいけないという人がいましたが、運営するのに足りるような利用数が揃わなくて、保育所を利用しているのに、なぜ、みんな学童を利用しないのだらうと思いました。田舎の意識なのか、祖父母が学校に行くのに学童のようなところに世話になるのかという世間体を気にしているようなところはあると思います。それはだんだん変わってきているとは思いますが、まだ利用がないところはそのような意識がまだあるのかなと思いました。学童を利用したいのだけど、世間体を気にして利用しないのかなとも思いました。</p> <p>また、保育料の問題もあると思います。保育所より時間が少ないけどある程度の負担をしなくてはいけない</p>

<p>岡村委員</p>	<p>負担感の高さも大きい問題であると思います。</p> <p>就学前の調査では、保育所の利用希望が6・7・8・9時間と高い数値となっていて、日中の保育というのは高い意識持っています。それが学校に上がった途端にそういったバックアップがきかなくなります。そういうことは、調査をしてみるとうちの方も学童をやりたいという声は必ず出てくるものだと思います。</p> <p>私は、学童保育をやっていて、利用料金は、一日500円として設定しています。金額が高いとありますが、全国の学童保育の集まりに参加してときに、利用料金について聞いたところ、3,000円、5,000円、10,000円、15,000円と地域によって差があります。また、市がやっているところもあり、料金は差があります。料金を安くして子どもの数を増やし、ただ見ているだけの施設も増えているそうです。できれば学童保育がどのようなところか皆さんに知ってもらい、やっている学童保育のところに見学してもらいたいと思います。また、子どものためにどうしたらよいのかということと一緒に考えていただければ、料金というより、安全や子どもの将来のための大切な時間をつくっていけるとと思います。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>4ページの子どもの何歳になったら就労したいかで7歳が一番高いですが、これは、子どもが2年生という認識ということでしょうか。</p>
<p>事務局・白石 鈴木副会長</p>	<p>そうです。</p> <p>1年生は早く帰ってくるので、ここで就職は厳しいかなという人が2年生まで待つのかと思っています。そのあと、10歳の小学校5年生が13.3%あって、塾に通わせていたりすると放課後はそれで過ぎるから仕事ができるかなと判断ができたりできます。ただ、6歳の13.3%が、先ほどの学童を「利用しなくてもよい」、</p>

	<p>「利用するつもりはない」と「小学校に入ったら仕事を始めたい」という意見とどう両立するのか、矛盾はないのかなと思うのですが、小学校になったらある程度手が離れるので、おじいちゃんおばあちゃんがいるから、任せて仕事をしたいと考えるのか数字だけでは背景がわからないところだと思います。</p> <p>また、高学年で放課後子ども教室という欄がありますが、市内のどこかでやっていますか。</p>
事務局・白石 鈴木副会長	<p>ありません。</p> <p>放課後子ども教室は無いけども、高学年になったら入れたいという希望がこれだけ出ているということですか。</p>
事務局・白石 鈴木副会長	<p>あくまで希望調査ですので、現在ありませんが、設問としては設定してあります。</p> <p>放課後子ども教室と放課後児童クラブはどう違うのですか。文科省と厚労省から内容的にはあまり変わらないものが出ているかなと思います。</p>
事務局・白石 鈴木副会長	<p>放課後子ども教室ですが、学校で地域のボランティアの方から勉強やスポーツを行う場です。放課後児童クラブは、家庭の代わりの場で、暮らしの提供で趣旨は少し違うものです。</p>
鈴木副会長	<p>それはやはり文科省と厚労省の立場の違いで、根底には夕方帰ってきて家庭にみる人がいないので、ある一定時間の過ごし方の違いで学童クラブになったり子ども教室になったりすると思います。省庁の違いで目的が違ってくるのかなと思います。</p>
白井委員	<p>学童保育は自分で選べるものなのではないでしょうか。飯野小に行っていたら飯野小の学童を利用しなくてはならないのでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>学童は、お子さんが自分で行くのが基本ですから、飯</p>

<p>白井委員</p>	<p>野小に通っていたとして、他の小学校の学童に行くのに、移動手段がないので、基本的には通っている小学校の学童に行くのではないかと思います。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>かかってくるお金などで、学童を選べないものでしょうか。また、どういうところに通わせたいとかそれぞれあると思うのですが。</p>
<p>白井委員</p>	<p>数が少ないので、現実的にはその小学校の学童に通わせるのだと思います。例えば、他の学童が送迎をすれば可能ですが、そこまでやっているところはないと思いますので、現実的にはその学校の空き教室の学童か、学校外に学童があればそこまでお子さんが歩いていくのが基本です。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>利用する立場だと働くとかかる費用は抑えたいので、利用料金を下げてもらいたいという意見もわかります。行かせるのに充実したところに行かせたい人もいると思うので、選べるようにと考えると小学校を選ぶしかないのでしょうか。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>他市では、公設でやっているところもありますが、富津市では補助金を交付して運営していただいています。補助金は、国の補助金の基準に基づいて設定しており、料金は、概ね保護者に半額負担してもらうという基準で設定しております。ですので、市内でしたらだいたい同じ負担になっていると思います。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>吉野小学校は学童保育がなくて、大貫小にあるので大貫小に通っている子もいることはいます。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>私のところは、歩いて来られない場合は、学童は送迎が出来ないので、保護者の送り迎えで通っている子もいますので、選べることは可能だと思います。</p>
<p>岡村委員</p>	<p>その送迎はおじいちゃんおばあちゃんの送迎ですか。そうです。</p>



事務局・渡邊	<p>飯野・大貫・佐貫については、学校の中の余裕教室で学童保育を実施していただいておりますので、その小学校については他の小学校の子どもは来ていない状況です。青堀では学校以外の場所で行っているところもあります。</p>
十川会長	<p>他に、ご意見、ご質問等がございますか。 無ければ、その他で何かありますか。</p>
松倉委員	<p>保育と学童の利用状況がどれくらいあるのでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>第1回の会議資料8の3ページで利用者数は記載させていただきます。利用者数は、合計で記載しています。</p>
松倉委員	<p>支援センターのことが自由記載で多く取り上げられていますが、支援センターはどのようにやっているのでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>富津市では、青堀保育園と和光保育園の2園の敷地内で支援センターをやってもらっていますが、君津市のように別の場所で行っている方が行きやすいという意見もありました。また、我々のPR不足もあると思いますが、知らない人もいます。</p>
松倉委員	<p>利用状況の詳細がわかれば良いかなと思いました。</p>
金子委員	<p>支援センターは、月何人位が利用しているのでしょうか。延べ人数だとわかりづらいところはあります。</p>
事務局・白石	<p>1日平均6～8組くらいの利用だと思います。</p>
鈴木副会長	<p>和光の今日の支援センターは17組来ています。施設的には17組来るといっばいですので、利用が難しい面があります。 君津市の場合は、広報が行き届いていると思います。</p>

<p>松倉委員</p>	<p>公設で実施している事業と民間がやっている事業との違いかなと思います。民間でやっているとPRはやはり弱いものですので、これを機会に市は支援センターに限らず、広報の仕方を工夫してもらいたいと思います。</p> <p>この支援センターの利用者数は多いものでしょうか。また、いつも同じ親子がきているものでしょうか。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>和光の支援センターに来る親子はだいたいいつも同じで、新しい親子がくると話題になります。利用数から考えると富津市の約1割が利用してくれているのかなと思います。</p>
<p>富井委員</p>	<p>週5日か6日支援センターを利用していますが、やはり来る人はいつも一緒です。また、土日は富津市ではやってないので、君津市の支援センターに行くのですが、やっぱり色々な人と年代の人が来ています。</p> <p>表にあるものだと延べ人数なので、同じ人のカウントは多くあると思います。隣の市となんでこんなに違うのかは思います。保育所の中でやると駐車場の問題もあるし、やることも限られてくると思います。</p> <p>今後、市で新たに支援センターを作る計画はありますか。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>現在はありますが、計画を作る中で検討していきたいと思っております。</p>
<p>金子委員</p>	<p>富津市では、待機児童はいないと聞いているのですが、富津市の特徴として、計画の中で延長保育や休日保育の充実などを重点的に考えて、富津市の特徴を考えるのも手かなと思います。</p>
<p>事務局・白石</p>	<p>休日保育などは民間の保育園で実施はしているところはありますその他の部分では検討しなくてはいけないところはあると思います。</p>
<p>富井委員</p>	<p>アンケート結果について、公表されるのでしょうか。</p>

事務局・白石	<p>結果については、広報紙とホームページで公表する予定です。広報紙は紙面の都合がありますが、ホームページでは、全て掲載する予定です。</p>
鈴木副会長	<p>アンケートを取ったことについては、重要でみんなの声を生かしていかななくてはならないと思います。</p> <p>学童保育についてもぜひ作ってほしいと声がありますが、始めた人たちは場所や人を確保して頑張ってきたので、作ってほしいと言われてすぐに作れるものではないと思います。ただ、今までがそのように作ってきたからこれからは同じようにやるとは思えないと思います。これからは、公と連携して考えていかななくてはならないと思います。</p> <p>また、今後については、どのようにしていくのでしょうか。事業量としてのニーズはどのように把握していくのでしょうか。</p>
事務局・白石	<p>作業については、国から示されており、今後の推計児童数と今回回答していただいた結果のニーズ量を合わせて、どれくらい必要かを算定して、どのように対応していくかを検討し、計画を作っていくこととなります。</p>
十川会長	<p>事務局には、みなさまの貴重なご意見について検討していただきたいと思います。</p> <p>以上をもちまして、本日の議題は、全て終了いたします。</p>
十川会長	<p>それでは、以上をもちまして、平成25年度第2回富津市子ども・子育て会議を終了いたします。皆様ありがとうございました。</p>